

印西大師 番外 岩戸・西福寺

1 名称 (No.148/263)〔手引鏡：西福寺〕〔資料館：西福寺〕〔行程表：西福寺〕

2 場所 印西市岩戸1508 西福寺

岩戸・出張堂から道程約870m

前面道路は車が多い。宗像神社方面から西福寺入口付近まで歩道あり。

GPS座標 35.76479563969234, 140.17174131772333

3 由緒 臨済宗妙心寺派

岩戸村字市場にあり 円応寺末にして臨済宗妙心寺派に属す 釈迦如来を本尊とす 開基岩戸五郎胤安 故ありて忠死 其の後荒蕪の地に及び鬼哭燐火の怪み有り 因て円応寺二世道庵和尚一字を城址に草創 于時文和二癸巳年文化甲子年八月焼失 明治十年九月再興・檀徒13人（印旛郡誌）

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が2体あり。

5 境内 木々の緑陰がきれいだ。広い境内で、建物がいくつもある。六地藏などの石造物も多い。

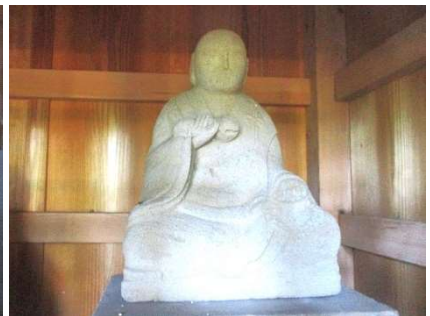
6 写真 (2023.10撮影)



西福寺



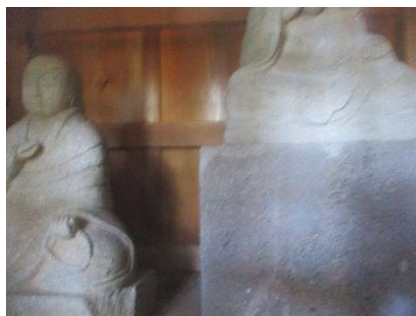
左の御大師様



右の御大師様



本堂



右の御大師様の台座が高い



岩戸胤安の碑と大師堂

7 情報

(1) 岩戸城跡と西福寺

岩戸の臨済宗妙心寺派西福寺は、岩戸城跡内にあります。

鎌倉時代の終わり頃の臼井周辺は、臼井氏一族の志津・岩戸・師戸・用草(もちぐさ)氏が小武士団を結成していました。岩戸城主は、江戸時代の様々な文献により、鎌倉時代の終わり頃に臼井城主臼井祐胤(すけたね)に仕えた岩戸胤安(たねやす)と伝えられます。同寺の過去帳によれ



ば、胤安・胤親父子は文保2年(1318)、臼井氏一族の志津胤氏(たねうじ)に攻められ城中で自刃しています。また、寺伝では、臼井城主臼井興胤(おきたね)の子道安和尚による文和2年(1353)創建です。興胤は幼少の頃、志津胤氏の策謀から胤安に助けられた経緯があり、足利尊氏に従う等して臼井城に復帰後、胤安の霊をなぐさめるために西福寺を建立したと伝えられます。本尊は釈迦如来です。その後文化元年(1804)に消失し、明治10年(1877)に再興され、また移築されたということです。城跡は、現在の西福寺と墓地がある高さ3m~4mの土塁や空堀で囲まれた一辺70m~囲mの方形区画と周囲の曲輪に構成され、全体では120m×150mの大きさです。平成2年同寺の墓地造成に伴い土塁囲みの中の一部約500㎡が発掘調査されました。その結果、多くの建物の柱穴や十坑(墓)が見つかり中世前半~江戸時代末の陶磁器や土器・鉄製小刀・銭・石塔などが見つかりました。中世岩戸城跡・近世西福寺、或いは陣屋の建物も重なって検出されたと考えられます。(「新印西名所図会」より)